

5月のバラ

株式会社榎戸材木店
会長 榎戸 正人

6月号なのに「5月のバラ」というタイトルですが、5月号の原稿締め切りは4月中旬でまだバラは咲いておらず写真を掲載できないので6月号とさせて頂きました。「5月のバラ」は歌のタイトルにもなりましたが、別に5月にしか咲かないわけではなく、一番の見ごろの時期が5月だと言うことでしょう。我が家の庭にも赤が2種類、ピンク色、白、赤と黄色が混じった花が咲く、5種類のバラが植えてあります。白いバラは去年、会社の裏のバラを取り木して苗を植えたものなので、今年は2～3つの小さな花が咲いてくれれば上出来でしょう。

写真のバラは我が家で最も派手な色合いのもので、中心部が黄色、周囲が濃いオレンジなのですが、日が経つと中心部もオレンジ色に変わるという変わった品種です。これは20数年前に妻が友人の娘さんの結婚式に呼ばれ参列したときに、テーブルの上に飾られていた花がきれいだったので、花束にしてもらって持ち帰ったもので、カーネーションなどは挿し木は出来ませんが、バラは上手くいけば育つかもしれないと植えて見事に根付いたものです。

バラは園芸植物の中でも育てるのが難しいとされており、各地にあるバラ園には専門の植木職人がいて手入れをしています。難しいとされる原因は秋を迎え花の時期が終わると剪定作業といって不要な枝を切り落とし、また次の時期に美しい花が咲くように手入れをしなくてはならないことで、邪魔な枝を切り落とすのではなく残すべき枝と不要な枝を見極めるのが難しいからです。バラ園の植木職人は先輩に教わりながら熟達していくわけで、この剪定作業ができるようになったら一人前と言われていきます。

私は職人に習ったわけではありませんが、結婚して浦安に越してきて家庭菜園を始めたとき妻から花は育てないのと言われ、どうせ手間が掛かるのだから食べられないものは育てないと言ったら、なんて夢のない人と結婚したのだろうとグチを言われたため、それならバラを育ててみせると本を買い集めて勉強して剪定まで出来るようになりました。食べられなくても毎年美しい花が咲いてくれるのは嬉しいもので、今では写真の品種のほかに一般的な赤、ド派手な真紅、白いバラ、ピンク色と5種類を育てています。

育てるのが難しいと言っても枯れてしまうことは殆どないので、野菜を育てるよりも手間は掛かりません。皆さんもチャレンジしてみてもいいのではないでしょうか。

